送辞

今年は十年に一度といわれる寒波が日本に到来し、厳しい寒さや雪に見舞われましたが、次第に根雪もとけ、暖かな春の訪れが感じられる季節となりました。
かくもよき日に卒業生の皆様が、ご卒業を迎えられましたことを、在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

先輩方はこの高志高校での３年間をどのような思いで振り返っておられるでしょうか。

３年前の2020年４月は、新型コロナウイルス感染症の影響で全国の学校が臨時休校となっていた頃で、先輩方の入学式は６月に行われたと聞いております。入学後も思い描いていた高校生活を送ることが困難だったと思われますが、そのような中でも様々な活動に全力で楽しみながら励んでおられた光景が私たち在校生の目にもしっかりと焼き付いており、先輩方との思い出が次々と蘇ってきます。中でも印象深いものは、やはり部活動と学校祭です。

部活動では時間や場所の制限にとどまらず、大会・試合などが中止になることも多々ありましたが、短い時間の中で仲間と共に目標を達成するために、努力を重ね、素晴らしい結果を残された先輩方は私たちにとって非常に大きな存在であり続けています。

学校祭は、一日開催が復活したフェニックス祭のステージ発表で始まりました。オンライン配信など工夫を凝らした文化祭、そしてパフォーマンス、作り物を通して各色が勝利のために結束した体育祭。一人ひとりが異なる役割を担い、活躍していた姿、そして笑顔に満ち溢れた先輩方の表情を身近で感じ、来年度の学校祭も必ず成功させたいと強く思うようになりました。

他方で、毎日遅くまで教室や自習室で必死に勉強したり、進路支援室の前のスペースで先生に自主的に質問したりされている先輩方の姿がありました。そのひたむきに努力する姿を目にし、進路志望を実現することの厳しさだけでなく、夢に向かって常に努力をし続けることの大切さを学ぶことが出来ました。

変化の多い三年間を乗り越えて、今日の高校卒業という一つの節目を迎えられた先輩方は、私たち在校生の誇りであると共に、これから私たちが直面する困難に挑

むための大きな希望です。私たち在校生は、これまで先輩方が築き上げてきた伝統を受け継ぎ、この高志高校をさらに発展させて参ります。

さて、この程新型コロナウイルス感染症にかかる制限が緩和されるという方向性が示されました。一方で社会全体における課題は、時が経つにつれ増加し、私たちを取り巻く社会環境は目まぐるしく変化していきます。このような社会を生き抜く糧となるのは、先輩方が高志高校で培ってきた様々な経験や、巡り会った友人たち、そして先生方です。

私の好きな映画に「フォレストガンプ/一期一会」というものがあります。知的な障害はあるけれど、純粋な心で今やりたいことに励み、懸命に人生を駆け抜ける男性を描いた映画です。彼は映画の冒頭でこのような言葉を残しています。

”Life was like a box of chocolates. You never know what you're gonna get.”

「人生はチョコレートの箱のようなもの。食べてみるまで中身は分からない。」

この言葉から、私は一度きりの人生の中で何事に対しても挑戦し続けることが大切だということに気づきました。これからの人生では、正しいありかたや周りの目を気にしすぎるあまり、自分の信念が揺らいだり、自信を失ったりすることで、自分の可能性を狭めてしまうかもしれません。しかし、チョコレートの箱を開けると数、形、味などが分かるのと同じで、挑戦して初めて人生はより豊かなものになります。コロナ禍での様々な苦難を乗り越えて来られた先輩方なら、自分の可能性を信じて、ひたむきに挑戦し続け、それぞれの人生を切り拓いていかれることでしょう。

最後になりますが、本校の校訓である克己・創造・敬愛の下、高い志を持ち、自分らしさに磨きをかけていかれることを私たち在校生は応援しています。卒業生の皆さんのご健康と更なるご活躍を心よりお祈り申し上げ、送辞といたします。

令和５年３月１日

在校生代表　内田莉子